2022 年 1 月 20 日

フィリップ証券
A Member of PhillipCapital

ウェルズ・ファーゴ（WFC）

4Q 純金利マージンが前四半期比 0.08 ポイント上昇の 2.11%。利鞘で競合他行に先行、利上げ局面で優位へ

ニューヨーク | 銀行 | 業績フォロー

フィリップ証券株式会社

BLOOMBERG WFC:US | REUTERS WFC.N

- 2021/12期4Q（10-12月）は、総収益が前年同期比12.8%増、純利益が同86.0%増。前四半期比でも総収益が10.7%増、純利益が12.3%増。
- 4Qの純金利収益は前年同期比では減少も前四半期比で増加。純金利マージンが前四半期比0.08ポイント上昇の2.11%と改善した。
- 他の米大手商業銀行と比べて純金利マージン水準が高く、前四半期からの改善でも先行。FRB による利上げ局面で優位に立とう。

What is the news?

1/14発表の2021/12期4Q（10-12月）は、総収益が前年同期比12.8%増の208.56億USD、純利益が同86.0%増の57.50億USDだった。預貸の利鞘に係る純金利収益が同0.1%減の92.62億USDだったものの、非金利収益が同26.9%増の115.94億USDと増収に寄与。利益面では、与信環境の好転による貸倒れ等のクレジット損失引当金戻入れが増加したほか、経費削減や構造改革費用の減少により非金利の営業費用の総収益に対する比率である経費率が同16.7ポイント低下の63.3%となったことが貢献した。前四半期比でも総収益が10.7%増、純利益が12.3%増。純金利収益と非金利収益の両方が増加したことに加え、経費率が7.3ポイント低下した。

4Q総収益のうち純金利収益は、純金利マージンが前年同期比0.05ポイント低下の2.11%と悪化も、前四半期比は0.08ポイント上昇と改善。4Q末貸出残高も前年同期比2.7%減だったが、前四半期比2.5%増となった。

4Qのセグメント別総収益は以下の通り。①コンシューマー・バンキング＆貸付部門が前年同期比1.4%増の87.33億USD。新型コロナ対応で実施していた預金手数料徴収の猶予額が減少したこと、および自動車ローン融資の伸びが貢献。②商業銀行部門が同1.4%増の22.84億USD。③法人・投資銀行部門が同11.4%増の35.12億USD。市場運用トレーディング収入は減少も、銀行業務および商業不動産関連が増収だった。④資産運用部門が同5.8%増の36.48億USD。管理運用資産の増加により手数料収入が増加した。⑤その他自社財務部門が同2.1倍の31.20億USDだった。

How do we view this?

2022/12通期会社計画は、純金利収益が前期比8%増、事業売却や構造改革費用など一時的要因の影響を除く調整後の営業費用が同1.5%減。純金利収益への寄与度は、FRBによる利上げ開始を5月と想定したことに伴って純金利マージン改善を5%、貸出残高増加を3%としている。FRBによる利上げの開始時期前倒しや回数増加次第で上振れが期待されよう。

同行は純金利マージンでライバル行を上回り、前四半期からの改善でも先行。他の米大手商業銀行の4Q純金利マージンは、**JPモルガン・チェース（JPM）**が1.63%（前四半期比0.01ポイント上昇）、**バンク・オブ・アメリカ（BAC）**が1.67%（同0.01ポイント低下）、**シティグループ（C）**が1.98%（同0.01ポイント低下）。FRBによる利上げ局面で更に優位に立とう。

業績推移　※参考レート 1USD=114.33円

事業年度	2019/12	2020/12	2021/12	2022/12F	2023/12F
売上高(百万USD)	103,915	80,303	82,407	73,312	77,458
当期利益(百万USD)	19,549	3,301	21,548	14,662	16,508
EPS(USD)	4.05	0.41	4.95	3.86	4.70
PER（倍）	13.72	135.54	11.23	14.40	11.82
BPS(USD)	40.05	39.52	43.12	45.32	47.84
PBR（倍）	1.39	1.41	1.29	1.23	1.16
配当(USD)	1.92	1.22	0.60	0.99	1.33
配当利回り（%）	3.46	2.20	1.08	1.78	2.39

（出所：Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg）

配当予想(USD)	0.99	（予想はBloomberg）
終値(USD)	55.57	2022/1/19

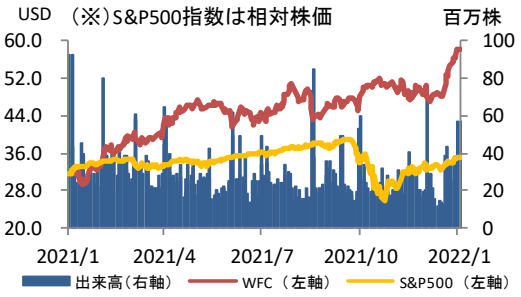
会社概要

1852年設立。米カリフォルニア州サンフランシスコ市を本社として米西部を地盤とする。2021年末時点で、総資産では、**JPモルガンチェース（JPM）**、**バンク・オブ・アメリカ（BAC）**に次いで全米第3位。中核的自己資本（Ter1）では、それら上位2行のほか、**シティグループ（C）**に次いで全米4位。また、国内リテール事業（2020年末時点）は、支店数が約5,000店で全米第1位と米国最大規模のネットワークを擁し、顧客数が6,500万世帯でバンク・オブ・アメリカについて全米第2位を誇る。

同社の事業セグメントは、①個人向けリテール事業の「コンシューマー・バンキング＆貸付部門」、および法人3事業の②「商業銀行部門」、③「法人・投資銀行部門」、④「資産運用部門」の主要4部門のほか、⑤「自社財務部門」の5事業部門から構成される。その内、2021年10-12月期ではコンシューマー・バンキング＆貸付部門が全体の営業収益の約42%を占めた。

企業データ（2022/1/19）

ベータ値	1.23
時価総額(百万USD)	215,934
企業価値=EV(百万USD)	#N/A N/A
3ヵ月平均売買代金(百万USD)	1,326.4



（出所：Bloombergをもとにフィリップ証券作成）

主要株主（2022/1）

	（%）
1.VANGUARD GROUP	8.56
2.ﾌﾞﾗｯｸﾛｯｸ	7.55
3.FMR	4.81

（出所:Bloombergをもとにフィリップ証券作成）

リサーチ部
笹木 和弘
kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp
+81 3 3666 6980

【レポートにおける免責・注意事項】
本レポートの発行元：フィリップ証券株式会社　〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町 4 番 2 号
TEL:03-3666-2101　　URL：http://www.phillip.co.jp/
本レポートの作成者：公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

＜日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則　平 14.1.25」に基づく告知事項＞
・ 本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。